学びをつなぐ道徳科授業を目指して
～環境面と授業面の両面の実践から～

鹿屋市立鹿屋小学校　教諭　玉井　祐介

目　次

１　研究の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
研究の背景

２　研究の内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
⑴　研究主題についての基本的な考え方
⑵　研究の仮説と研究内容

３　研究の実際　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
重点①　カリキュラム・マネジメントの視点を生かした年間計画の見直し
重点②　導入と終末，発問と板書の工夫
重点③　「着眼点」と「考え方」を意識させるための『学び方カード』の活用
重点④　「学びの足あと」となる振り返りシートの活用
重点⑤　道徳コーナー『心のあしあと』の設置

４　研究のまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
⑴　研究の成果と課題
⑵　今後の研究構想

〔引用・参考文献〕

・「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　特別の教科　道徳編」　東洋館出版　平成 29 年
・「小学校道徳　問題解決的な学習をつくるキー発問５０」　柳沼良太・竹井秀文　明治図書　平成 30 年
・「道徳科授業のネタ＆アイデア１００小学校編」　田沼茂紀　明治図書　平成 30 年
・「道徳授業の板書スタンダード＆アドバンス」　有松浩司　明治図書　令和２年
・「おもしろすぎて授業したくなる道徳図解」　森岡健太　明治図書　令和３年
・「道徳授業の板書づくり＆板書モデル大全」　「道徳教育」編集部　明治図書　令和４年
・「『探究する道徳科授業』のための思考の技法」　坂本哲彦　東洋館出版　令和６年

１　研究の目的

研究の背景

・　社会的背景・今日的な教育課題から

「特別の教科　道徳」（以下,「道徳科」という）の学習指導要領は，社会的な背景や課題等を踏まえていじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものになっている。また，道徳科の授業では，子供がよりよく生きるために，答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題として捉え，それに向き合いながら考え，判断し，行動・実践できる資質・能力を育むことが求められている。そこで道徳科の授業では,学習指導要領の目標にもあるように,子供が道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育て，様々な学習を通してより一層道徳性を養い，学習したことを日常生活や自分の生き方に生かす力を高めていく必要がある。

・　本校の教育目標・学級や教師の実態から

本校は，児童数約 530 人で，学校や地域の特性を生かした様々な体験学習や行事を多く行っている。子供たちは，学級活動や児童会，クラブ活動を中心に自主性や社会性を身に付け，同学年や異学年の中で助け合う姿が多く見られ，学校は笑い声であふれている。

私が担任している５年生の学級の子供も，元気で明るく，友人と積極的に交流する姿が見られるが，善悪の判断があまりつかない子供や，自分がしなくても他の人がするから…と他人任せの子供も少なくない。今後，多様化した社会を生きていく中で，様々な問題に直面したときに，それに向き合って考え，判断し，行動・実践できる資質や能力を身に付けることは非常に大切である。

また，私自身の道徳科の授業を振り返ってみると，１時間単位の授業に力を入れていても，授業どうしのつながりを意識したり，授業で学んだことをどうすれば生活場面に生かしやすくなるのかというところまで考えたりすることがあまりなかった。そこで，子供が学んだことを次の授業や自分の生き方につなげる授業を行ったり，今後に生かしていきやすくなる環境づくりを行ったりしたいと考えた。

以上のことから,「学びをつなぐ道徳科授業を目指して～環境面と授業面の両面の実践から～」いうテーマを設定した。

２　研究の方向

⑴　研究主題についての基本的な考え方

「学びをつなぐ道徳科授業」とは…

子供が，学んだことを次時以降の授業につなげたり，学んだことを自分の生活や生き方につなげたりしようとする道徳科の授業。

⑵　研究の仮説と研究内容

研究・実践を進めていく上で，次のように仮説を立て，その内容を具体化し重点として整理し，テーマの解決に迫るようにした。

社会的背景・今日的な教育課題

道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育て，様々な学習を通してより一層道徳性を養い，学習したことを日常生活や自分の生き方に生かす力を高めることが求められる。

本校の教育目標・学校や教師の実態

・問題を考え，判断し，行動・実践できる子供を育てたい。
・授業どうしのつながりを意識したり，授業で学んだことをどうすれば生活場面に生かしやすくなるのか考えたりしたい。

研究主題　学びをつなぐ道徳科授業を目指して
～環境面と授業面の両面の実践から～

研究の仮説　道徳科の授業につながる環境を整え，授業で見方・考え方を働かせることができる手立てを行えば，子供が学んだことを次時以降の授業に生かしたり，自分の生活や生き方に生かしたりする学習指導を行うことができるのではないか。

環境面の手立て	授業面の手立て
重点① カリキュラム・マネジメントの視点を生かした年間計画の見直し	重点② 導入と終末，発問と板書の工夫（昨年度の取組の継続）
重点⑤ 道徳コーナー『心のあしあと』の設置	重点③ 「着眼点」と「考え方」を意識させるための『学び方カード』の活用
	重点④ 「学びの足あと」となる振り返りシートの活用

見方・考え方（道徳的価値を理解する　自己を見つめる　多面的・多角的に考える　自己の生き方についての考えを深める）

目指す子供像　**学んだことを次からの授業につなぐ子供**
学んだことを自分の生活や生き方につなぐ子供

３　研究の実際

仮説「道徳科の授業につながる環境を整え，授業で見方・考え方を働かせることができる手立てを行えば，子供が学んだことを次時以降の授業に生かしたり，自分の生活や生き方に生かしたりする学習指導を行うことができるのではないか。」に対し，次の５つの重点に基づいて研究を進めた。

重点①　カリキュラム・マネジメントの視点を生かした年間計画の見直し【環境面】

子供が学んだことを次時以降の授業に生かしたり，自分の生活や生き方に生かしたりする道徳科の授業を目指すために，まず，学校・学年の教育活動の状況を把握し，別葉を参考にしながら教育課程の年間計画を教科等横断的な視点で見直した。

以前から学校全体としてカリキュラム・マネジメントの視点を生かした教育活動の見直しを行っていたが，今年度は教科書の内容が変更になる年度でもあるため，再度見直しを行った。教育課程や別葉等を基にしながら，学校や地域・学年の現状や行事などの計画を把握し，整理した。別葉の作成により多くは教育活動と指導内容が重なっていたが，道徳科の授業が効果的となるよう，教科横断的な視点で指導内容や時期を改めて見直し，少し修正を加えた。（以下，「見直し表」という（一部））

学期	月	行事とのつながり	教科等とのつながり	道徳教材の見直し
1学期	4月	いじめ問題を考える週間		「やさしいユウちゃん」（親切、思いやり）
	5月			
	6月		代かき・田植え（総合）	「サタデーグループ」（勤労、公共の精神） 「ひとふみ十年」（自然愛護）
	7月	大掃除（学校）		
2学期	9月			「ながらって…」（節度、節制）
	10月			
	11月	運動会準備 心のふるさと鹿屋小週間 集団宿泊学習	集団宿泊学習に向けて（学活）	「父の仕事」（勤労、公共の精神） 「真由，班長になる」（よりよい学校生活、集団生活の充実）
	12月			
3学期	1月	台湾大学教育実習生受け入れ		「マインツからの便り」（国際理解、国際親善）
	2月			
	3月			

これにより，教師が道徳科の授業と各行事や教科等とのつながりを意識して授業を行うことができ，子供が行事等の経験を想起して授業を受けたり，授業後に，学んだことを行事等に生かしたりしようとする姿が見られた。また，９月は夏休み明けで生活のリズムが崩れ，オンラインゲームやスマートフォンによるトラブルが増えたため，情報モラルと関連のある「ながらって…」（節度，節制）の時期を早めて実施した。子供の実態にも柔軟に合わせて授業を行った。

重点② 導入と終末，発問と板書の工夫（昨年度の取り組みの継続）【授業面】

子供が学んだことを次時以降の授業に生かしたり，自分の生活や生き方に生かしたりする学習指導とするために，「導入と終末，発問と板書の工夫」を行い，授業改善を図った。子供にとって魅力的な導入と「今日の学びを生かしたい」と思わせるような終末にし，効果的な発問によって子供の思考を広げたり深めたりしたいと考えた。また，子供たちの発言が多くなるよう思考を整理できるような構造的な板書にしたり，子供たちが多角的・多面的な考えにふれられるよう交流の仕方を工夫したりして，子供自身が学んだことを整理し，自己の生き方につなげられるようにした。

○　導入と終末の工夫

導入は，主題への興味・関心を高め，授業の中で追究すべき学習課題に焦点化し，学級全体の道徳的課題となるよう動機づけを担う部分である。また，終末は，本時の学習の学びを整理し，子供の心に留まるよう印象付けたり，日常生活での実践意欲を高めたりする役割を担っている。そこで，これまでの経験や様々な文献を参考にしながら，以下のような導入と終末の工夫を行った。

導入	・事前アンケートの結果から学習課題を焦点化する→自分事として考えられる ・主題に対し，できた経験やできなかった経験，そのときの気持ちを問う→学習課題を焦点化する ・教育活動や学校のトイレ等の施設の写真を見せる→自分事として考えられる ・教材やテーマに関する動画を見せる→イメージを持たせられる ・言葉からイメージを広げる→肯定的・否定的なイメージなど多角的に見つめる視点をもって授業に臨める ・教材文に出てくる人物や背景を先に紹介する→話を理解しにくい子供への手立てとなる
終末	・説話で成功体験や失敗体験を話す→教師の体験により，身近に感じやすい ・他の人のインタビュー動画を見せる →ゲストティーチャーより準備しやすく，事前に編集もでき，実践意欲も高められる ・導入と終末の問いを同じにする。→自己の変容を捉えさせやすい ・映像や曲を流す→余韻をもって終わることができる

○　発問の工夫

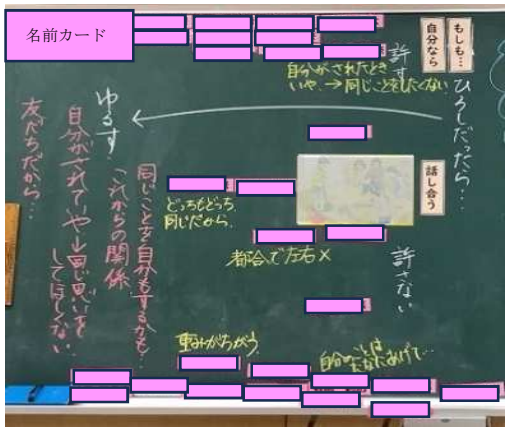
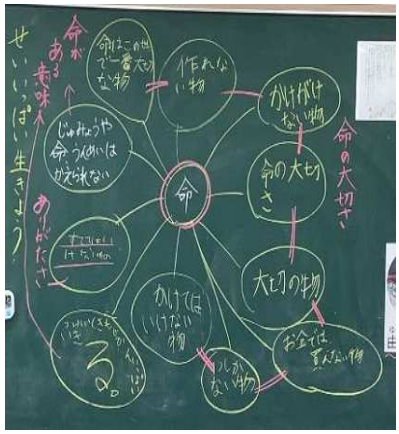
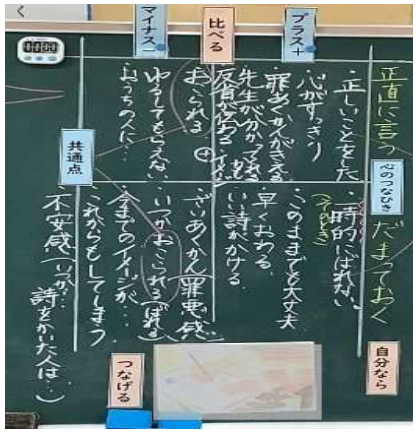
自分との関わりで考える道徳にするためには，教師の意図的な発問が欠かせない。「小学校道徳『問題解決的な学習』をつくるキー発問 50」という文献から発問を整理し，高学年の発達の段階や

教材，指導の展開に応じて発問を投げかけ，自分との関わりで考えさせたり対話活動を促したりした。

問題発見的な発問	「この話で（この場面で）何が問題になっているのだろう。」 「登場人物は，何に悩んでいるのだろう。」「どんな考えが対立しているのだろう。」
問題解決的な発問	「登場人物はどうしたらよいか（よかったか）。」「具体的にどう行動すればよいのか。」 「どうしたらお互いに納得できるか。」
吟味を促す発問	「その結果，どうなるのか。」「本当にそれができるのだろうか。」「自分がそうされてもいいのかな。」「相手が誰でもそうするのか。」「それぞれの考えの共通点や相違点は何か。」
批判を促す発問	「本当にその考えは正しいのかな。」「何が間違いだったのだろう。」
創造を促す発問	「別の考えはないかな。」
汎用を促す発問	「別の場面でも応用できるかな。」「日常生活でもこの考えを生かせるかな。」
自我関与を促す発問	「自分にも同じような経験はなかったかな。」「自分ならどうするか。」「登場人物の言動をどう思うか。」
価値追究を促す発問	「自由とは何だろう。」「なぜ正直にする心は大切なのだろう。」 「どうしたら道徳的価値を追究できるか。」「今日の学習でどんなことを学びましたか。」

○　構造的な板書

「道徳授業の板書づくり＆板書モデル大全」では，構造的な板書のポイントとして，①「板書の内容が構造的であること」，②「本時のねらいとしてみんなで追究した道徳的価値についての考えが構造的に示されていること」の２点を挙げている。授業や思考の流れと，子供たちが追究した道徳的価値についての考え方を分かりやすく整理できるようにした。

児童参画型	葛藤型	関係図型
主体的に学習に参画させる。	葛藤を上下に対比して見やすくする。	挿絵等を使って矢印で関係性を分かりやすくする。
		
心情型	**イメージマップ型**	**対比型**
登場人物の心情の移り変わりを視覚的に分かりやすくする。	子供たちの考えを広げていく。	複数の登場人物の行動や心情を対比させて考えさせる。
		

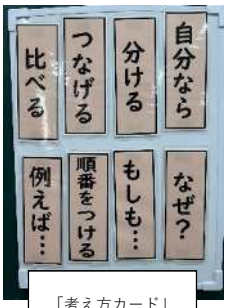
過去未来型
登場人物の出来事の前と後の行動や心情の変化を表し，どのように変わっていったのかや変化のきっかけを書くことで，道徳的価値に迫ることができるようにする。

重点③　「着眼点」と「考え方」を意識させるための『学び方カード』の活用【授業面】

道徳科の授業の目的は，「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる」ことである。それを実現するために，「①道徳的価値の理解を基に　②自己を見つめ　③物事を多面的・多角的に考え　④自己の生き方についての考えを深める」学習を通すことが明記されている。

そこで，上記の①～④の学習の要素を授業に取り入れ，学習したことを子供が生活場面でより生かしていきやすくするために，「『探究する道徳科授業』のための思考の技法」を参考に，思考技法や着眼点を可視化した『学び方カード』を作成した。

『学び方カード』は，「考え方カード」と「着眼点カード」の２つに分かれ，「比較・検討」や「想起」といった思考技法ごとに，思考する際の考え方や着目したいポイントをまとめている。授業の導入で主題へ焦点化する場面，教材から道徳的価値について考える場面，中心発問や問い返し，自己との関わりで考える場面などに，これらのカードを黒板に貼って考えさせることで，考え方や着眼点を可視化・自覚化できると考えた。以下は，『学び方カード』の一覧である。



「考え方カード」

「着眼点カード」

身に付けさせたい思考技法	「考え方カード」	考える際のポイントとなる「着眼点カード」
想起	思い出す	自分の経験や知識　今までの学習　自分の生き方
課題把握	見つける なぜ？（原因を考える）	共通点　相違点　納得や共感　問題点　今までの学習 心のつなひき（葛藤）　誰にとって
比較・検討	比べる 順番をつける 話し合う	共通点　相違点　問題点　プラスとマイナス　心情　行動 今までの学習　自分の経験や知識　自分の生き方 心のつなひき（葛藤）　誰にとって　今・過去・未来 納得や共感　どんなときでも　他の方法
選択	選ぶ	納得や共感　問題点　プラスとマイナス　誰にとって 自分の経験や知識　どんなときでも　心情　行動
身体表現化	動く（動作化・役割演技・実演する）	自分の経験や知識　心のつなひき（葛藤）　他の方法
一般化・抽象化	まとめる 分ける（仲間分け） つなげる（関係づけ） もしも…（仮定する）	共通点　相違点　心情　行動　プラスとマイナス 心のつなひき（葛藤）　誰にとって　今・過去・未来 他の方法　自分の経験や知識　今までの学習 自分の生き方　問題点
具体化	例えば 自分だったら	納得や共感　プラスとマイナス　自分の経験や知識 自分の生き方　心のつなひき（葛藤）　どんなときでも

【活用例１】

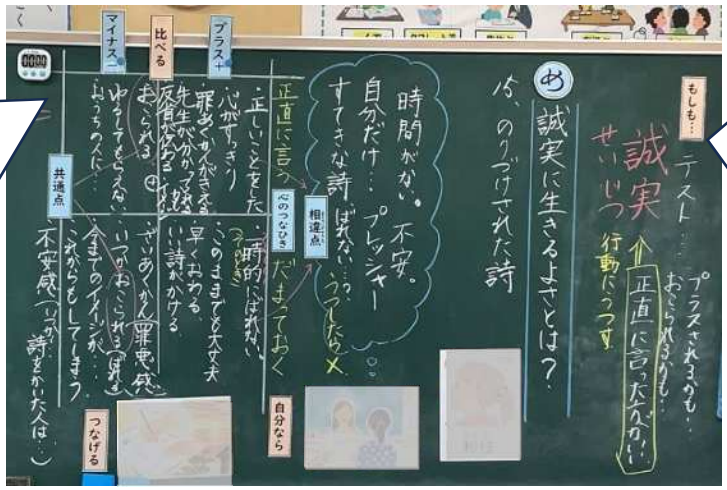
「考え方カード」

比べる

「着眼点カード」

プラス　マイナス

正直に言うこと，だまっておくことのメリットやデメリットを考えさせ，２つを比べて共通点や相違点を見付けていく。



「考え方カード」

もしも…

導入で，「もしこんなことが起こったらどうする？」と投げかけ，主題に迫る。

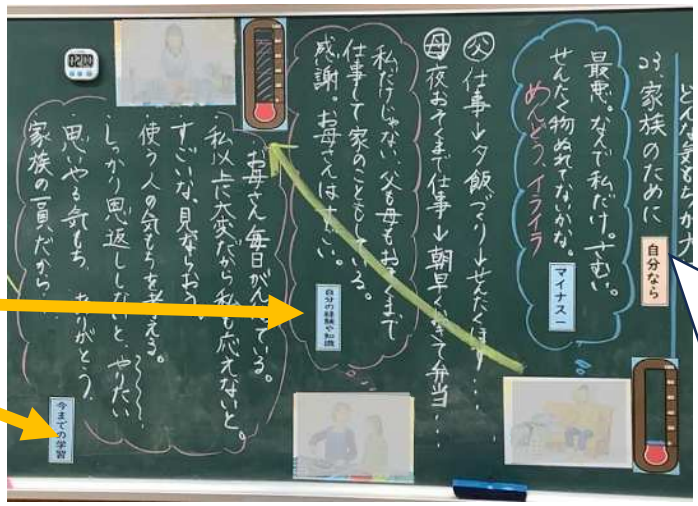
【活用例２】

「着眼点カード」

自分の経験や知識

今までの学習

「自分の経験や知識」や「今までの学習」とつなげて考えられていた子供の発言を取り上げ，カードを貼って可視化・自覚化させる。



「考え方カード」

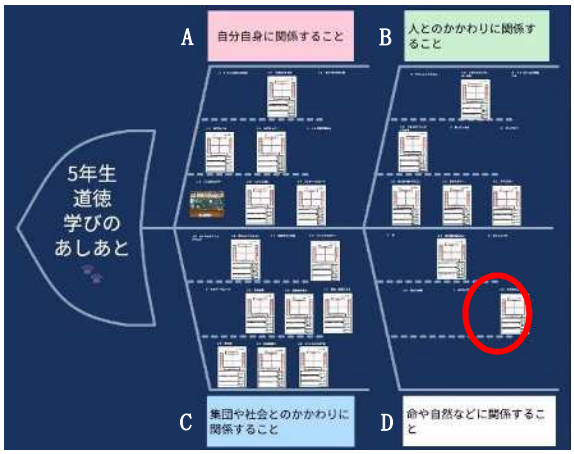
自分なら

教材を聞く際に，「自分が主人公ならどう行動するか考えながら聞いてね。」と聞く視点を持たせる際に活用する。

授業で活用するにつれ，子供から「このときはこの着眼点カードが使えるよ。」「この考え方で考えてみたい。」などといった発言がみられるようになり，子供が少しずつ思考技法を身に付けていっていることと感じた。今後，実生活で問題や教材と同様の事例が起きたときに，子供自身がこの思考技法を活用し，問題解決につなげていけるとよいと考える。

重点④　「学びの足あと」となる振り返りシートの活用【授業面】

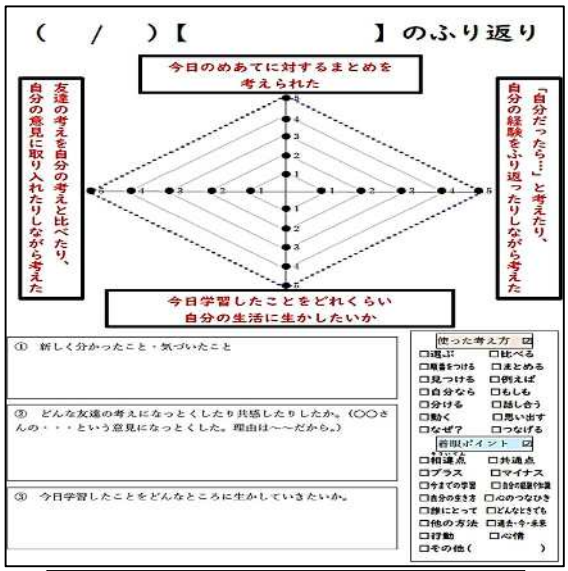
授業の終末に振り返りを行うが，その際に「振り返りシート」を活用した。道徳科は授業どうしのつながりが見えにくくなるという課題がある。そこで，一年間で学習する題材をまとめた振り返りシートを作成し，それを「A 自分自身に関すること」「B 人との関わりに関すること」「C 集団や社会との関わりに関すること」「D 生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること」の４つの視点に分類した。フィッシュボーンチャートの図にすることで，学んだことが分かりやすく整理され，以前の授業の振り返りを学びの足跡としていつでも見ることができるようになった。また，その日の授業だけでなく今までの授業の振り返



振り返りシート（全題材版）

りをしたり，授業をつなげやすくしたりできるようになった。

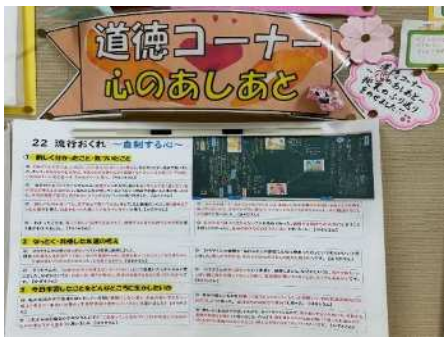
一時間単位の振り返りシートは，「今日のめあてに対する自分自身のまとめを考えられた」「自分だったら…と考えたり，自分の経験を振り返りながら考えたりした」「友達の考えを自分の考えと比べたり，自分の意見に取り入れたりしながら考えた」「今日学習したことをどれくらい自分の生活に生かしたいか」の４点をダイヤモンドチャートで結び，振り返りをしやすくした。また使った「考え方カード」や「着眼点カード」にチェックを入れて自覚化させたり，新しい気付きや納得した友達の考えと理由，今日の学習をどのように生かしたいかを記述させたりし，これからの生活や生き方につなげていけるようにした。



振り返りシート（１単位時間版）

重点⑤　道徳コーナー『心のあしあと』の設置【環境面】

自分の生活につなげやすくする手立てとして，教室に道徳コーナー『心のあしあと』を設置した。終末の振り返りを共有する時間があまりとれないため，振り返りで書いた３つの視点（「新しい気付き」「納得した友達の考えと理由」「今日の学習をどのように生かしたいか」）ごとに子供の様々な考えを載せ，１時間の学習で友達がどのように考えたのかを知る場を設けた。掲示するだけでなく，朝の活動で取り上げて紹介したり，道徳科の授業の導入で活用したりした。それにより，自分の考えが載って喜んだり友達同士で見合ったりして，振り返りへの意欲が高まる子供が増えた。



道徳コーナー

【重点①～⑤を取り入れた授業実践】

主題名　「集団でのやくわり」（C　よりよい学校生活，集団生活の充実）

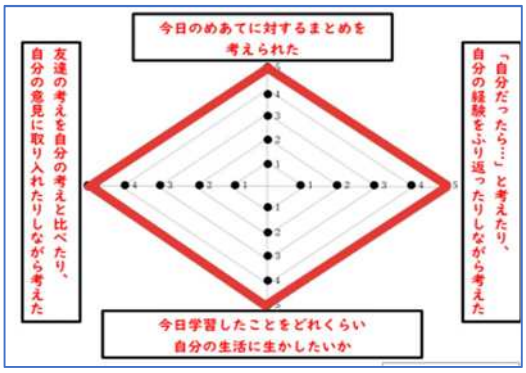
教材名　「真由，班長になる」

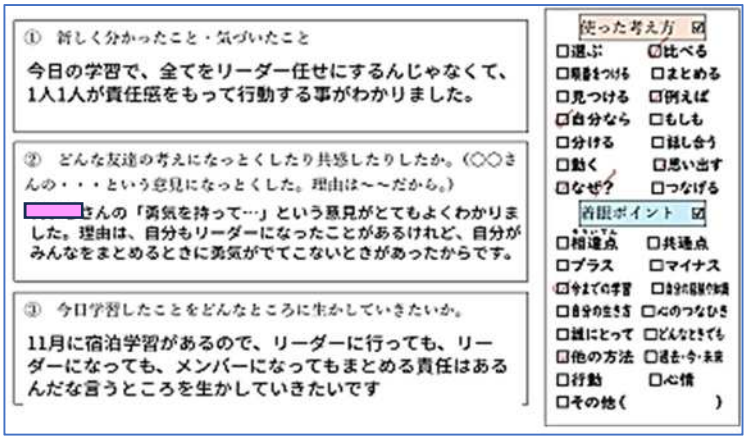
ねらい　主人公の気持ちや思いに共感し，よりよい集団生活とは何か，自分たちは何をすべきか考えることを通して，集団の全ての人が幸せな気持ちで過ごせることを目指そうとする態度を養う。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	重点とのつながり
つかむ	1　リーダーとしてグループをまとめた経験について自己を振り返る。 2　教材「真由，班長になる」の前半の感想を話し合い，本時のめあてをつかむ。 ・真由がかわいそう。 ・真由の言い方もよくない。 よりよいグループ活動にするために，大切なことは何だろう。	○　本時の主題に関心をもたせるために，**係や委員会等の経験を想起させる**。 ○　一人一人が問題意識をもって学習を進められるように，**教材の前半を事前に読ませ**，感想をまとめさせておく。 ○　自己の経験や教材の感想から，集団活動の難しさに焦点化し，「よりよいグループ活動にするために，大切なことは何だろう。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。	【重点②】事前アンケートの結果から学習課題を焦点化する。 【重点②】教材文に出てくる人物や背景を先に紹介する。 【重点③】『例えば』『自分なら』『思い出す』
見つける	3　教材の前半で，問題だと思う場面を見付け真由の気持ちについて考える。 ・自分の言うとおりにグループを動かそうとした。 ・班のみんなが自分の思いばかりを言っている。	○　**何が問題だったか考えさせ，問題場面を焦点化し**，主体的に解決しようとする意欲を高めることができるようにする。 ○　教材の前半部分の真由の気持ちを考えさせることで，頑張ろうとしたけど上手くいかなかった真由の気持ちに共感させる。	【重点②】問題発見的な発問

深める	・言うことを聞いてくれなくて残念だ。 ・みんなが気持ちよく活動をしたい。 4　教材の後半を読んで，話し合う。 ⑴　後半の真由が笑顔で班活動を終えることができたのか考える。 ⑵　にっこり笑い返した真由は，どんな心の大切さに気付いたのだろう。 ⑶　よりよい集団活動にするために，他に必要なことはないか考える。 ・リーダーも気を付けることがあるけど他のメンバーも協力しようとする気持ちが必要じゃないかな。 ・リーダーの気持ちや大変さを分かろうとする気持ちが必要だね。 ・グループのみんなに役割があるんだね。	○　挿絵の真由が笑顔になっているところに注目させ，**１日目の様子と対比する**ことで，真由の気持ちの変化をとらえやすくする。 ○　様々な意見にふれさせるために，自分の意見が書けたら自由に意見を交流させる。その際，相手の意見を聞いた時は反応し，友達に共感された考えには赤で線を引き，新しい発見があったら青で加筆することを伝える。 ○　挿絵の班員全員が笑顔になっている部分に注目させたり，「リーダーだけが頑張ったらいいのかな。」と**ゆさぶりの発問**を行ったりして，リーダー以外の班員にも大切な役割があることに着目させる。 ○　よりよい集団活動にするためには，みんなが幸せな気持ちになることが大切であることに気付かせる。	【重点③】『比べる』『なぜ？』 【重点②】吟味を促す発問 【重点②】創造を促す発問 【重点③】『他の方法』
振り返る	5　よりよい集団活動にするための心構えについて考える。 ・リーダーとして，自分の思いだけでなく，みんなのことを考えて行動する。 ・みんなが楽しい気持ちになるには，グループ全員が協力し合うことが大切。 ・それぞれが役割を果たす。 6　自分たちの生活を振り返る。 ・班長でも，班長じゃなくても自分の役割を考えたいな。	○　自分の考えを再構築するために，よりよい集団活動にするための心構えについて全体で話し合う。 ○　**板書を構造化**して，学んだことを整理しやすくする。 ○　**教材から考えたことを自分たちの生活とつなげて考えさせるために，11 月に行う宿泊学習をイメージさせる。**	【重点②】関係図型 【重点①】道徳と集団宿泊学習とのつながり 【重点②】自我関与を促す発問
広げる	7　本時の学習について振り返る。 リーダーにも責任があるけど、メンバーにも責任があると知った。 リーダーとしての役目を果たすために色々と改善することが大切だということがわかった。例えば、言い方を優しくするや、周りをよく見る、勇気を持ってなどを気にかけて、リーダーをすればいいと思った 和樹さんの相手のことをプラスに考えるという意見が自分の気付いたことに似ているなと思いました 8　侍ジャパン栗山監督についての話を聞く。 ・みんながキャプテンとしての自覚があるから日本一になれたんだね。 ・自分の役割を考えることが大切だね。	○　自分の意見をまとめさせ，**本時で学んだことを自分の生活とつなげて振り返らせる。** □くんの後悔のないようにと言う意見に共感しました。理由は自分もキャプテンで後悔のないようにキャプテンをしなさいと監督に言われたから 体育で並ぶ時や運動会に向けて活かしていきたいなと思いました。 ○　学んだことを日常生活に生かしていきたいという意欲を高めるために，「リーダーとして思い浮かぶのは誰ですか。」というアンケート調査で回答が多かったスポーツ選手の話をする。	【重点④】振り返りカード 児童の振り返り（一部抜粋）

児童の振り返り




① 新しく分かったこと・気づいたこと
今日の学習で、全てをリーダー任せにするんじゃなくて、1人1人が責任感をもって行動する事がわかりました。
② どんな友達の考えになっとくしたり共感したりしたか。（○○さんの・・・という意見になっとくした。理由は～～だから。）
□さんの「勇気を持って…」という意見がとてもよくわかりました。理由は、自分もリーダーになったことがあるけれど、自分がみんなをまとめるときに勇気がでてこないときがあったからです。
③ 今日学習したことをどんなところに生かしていきたいか。
11月に宿泊学習があるので、リーダーに行っても、リーダーになっても、メンバーになってもまとめる責任はあるんだな言うところを生かしていきたいです
使った考え方
□選ぶ　☑比べる
□順番をつける　□まとめる
□見つける　□例えば
□自分なら　□もしも
□分ける　□話し合う
□動く　□思い出す
□なぜ？　□つなげる
着眼ポイント
□相違点　□共通点
□プラス　□マイナス
□今までの学習　□自分の経験や知識
□自分の生き方　□心のつながり
□誰にとって　□どんなときでも
□他の方法　□過去・今・未来
□行動　□心情
□その他（　　）

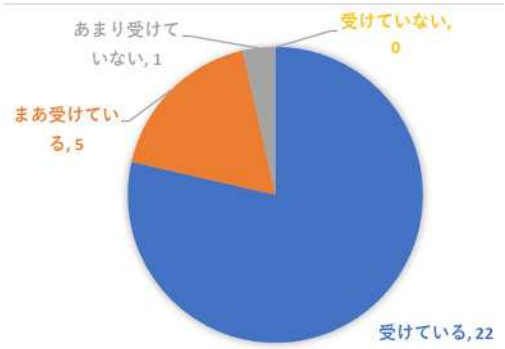
板書の様子

4　研究のまとめ

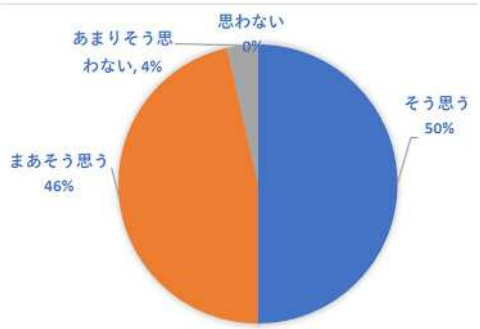
(1)　研修の成果と課題

12 月に子供たちにアンケート調査を行った。以下がその結果である。

ア　１学期の初めのころと比べて，道徳の授業を主体的に受けるようになったか。



イ　道徳の『学び方カード』を使うことで，考えやすくなったり分かりやすくなったり，自分の経験を授業とつなげやすくなったりしましたか。



ウ　振り返りカードを１つにまとめたことの効果に関する質問（一部抜粋）

- 前学習した授業と今日の授業で自分が考えたことを比較しやすくなった。
- 前の授業を振り返って，「あの時～が大切だ」と考えたことを思い出すことができる。
- 以前の友達の考えも振り返ることができるようになった。
- 「自分に関係すること」など書く場所が分類されていて，つながりが分かる。

エ　授業で学習したことを生活のどんな場面で生かしているか。（一部抜粋）

- グループ活動・係活動に取り組むときに話し合ったり意見を言ったりする時。
- 「自分だったら…」と考えるようになった。
- 宿泊学習の時に「真由，班長になる」の学習を思い出して行動できた。「真由，班長になる」の学習を生かして，部屋長に押し付けないで，自分でできることをやった。「真由，班長になる」の学習の後に宿泊学習があったから楽しく宿泊学習ができた。「流行おくれ」で学習したことを生かして，自分を見直してなんでも買ってと言うのをやめた。　など
- 友達と意見が違った時にも，「なるほど」と思えるようになった。
- 道徳カードが使えるようになってからは，自分の振り返りがしやすくなった。

成果

◎　アから，ほとんどの子供が主体的に授業に参加するようになった。
◎　イやウから『学び方カード』や『学びの足跡としての振り返りシート』の効果が感じられた。
◎　ウから，以前の授業と本時をつなげて振り返りができる子供が増えたことが分かった。
◎　エから，『学び方カード』を生活場面で生かしたり，学習したことを具体的に生活に生かしたりしていた。カリキュラム・マネジメントの効果も高かった。
◎　日々の授業の子供の発言からも，子供が『学びの足跡としての振り返りシート』や思考技法を学ぶ『学び方カード』を日常とつなげて考える姿が見られ，効果を感じた。

課題

●　全ての子供が生活場面とつなげていけるような手立てをとる必要がある。
●　同じ項目の授業を連続して実施するなどするとより効果が高まると感じた。

(2)　今後の研究構想

今回の研究で，道徳科におけるカリキュラム・マネジメントの大切さや授業を子供の日常につなげる視点をもつことの大切さを改めて実感した。本学級は中々意見を書けない子供や交流が苦手な子供といった配慮を要する子供が多いため，今後はユニバーサルデザインを取り入れた道徳科の授業について力も入れていきたい。